

早川氏庭榎の碑

カクキューの本社敷地内（岡崎市八帖町）にある史料館前の展示物のひとつに「早川氏庭榎の碑」という石碑がある。屋敷の庭に植えて愛護したエノキが繁栄をもたらしてくれたという、エノキの霊異を讃える珍しい石碑で、江戸時代末期の1855（安政2）年に建立された。

もともとは、早川家の檀那寺である願照寺（同市船越町）の北方にあった早川家所有の地内であったが、戦後の農地改革で田畑を手放してしまっただけ、八帖町にあった住まいの庭へ移された。

この石碑の四方面には、渡辺幹という人が書いた碑文が彫り込まれている。記してあるのは、エノキを讃えた

合資会社八丁味噌
（屋号：カクキュー） 十九代

早川 久右衛門 1



内容と、古くから語り伝えられてきた 碑文によると、時は戦国時代、15早川家の由来であり、貴重な歴史的資料であるため、現在は風雨にさらされ 60（永禄3）年の桶狭間の戦いにないよう史料館前に移された。でさかのぼる。 圧倒的な勢力を誇っていた今川義元

語り伝えられてきた由来

久右衛門と改めた。

この船越村とは、檀那寺の願照寺がある現在の船越町であり、碑文には記されていないが、わが家には「勝久は願照寺で味噌すり坊主に化けて追手からかくまってもらった」という言い伝えも残されている。

を織田信長が打ち破り、天下統一へ踏み出していった戦いだが、この時討たれた義元の家臣のひとりとして、神奈川県小田原市の早川とに早川新六郎勝久という人がいた。わが早川家の先祖である勝久は二君に仕えることを望まず、矢作川西岸の船越村に定住して、名前を

カクキューの十九代当主 早川久右衛門



早川家の先祖である勝久は二君に仕えることを望まず、矢作川西岸の船越村に定住して、名前を

